



めいおんの会



「音と人との調和を大切に」

名古屋市立守山中学校教頭 宇佐美 ほたか(H5卒)

「今からソプラノとアルトを合わせてみようか。ソプラノはピアノの左側に、アルトは右側に並んでね。」「準備はいいですか。始めます。1・2・3・4♪」

先日、TTに行っている3年生の授業で学年合唱の女声パートを合わせた。初めて合わせたので、不安そうな表情と音程であったが、きれいなハモリも確かにあった。中学生の一生懸命さが伝わってきた。



この30分前、私は書類に印鑑を押し、電話を掛けていた。「今日の授業、行けるかな。行くと書類が進まないし…」と自分の中で葛藤していた。しかし、「よし、いこう!」と決めて音楽室に向かった。そして、「やっぱり来てよかった」と生徒とともに音楽を楽しむことができた。授業の終わりに、教科担任より「来週は4パート合わせてみよう」という言葉があり、わくわくした。

今年度は、職員室と音楽室が主な私の職場である。仕事内容は違うが、どちらもたくさんの人と関わっている。相手に対する何気ない一言で気分が上がったり、反対に気分を害したりしていないか、一日を振り返り、どきどきとすることがある。

このような中で最近、ふと音楽も人間関係も調和が大切だなと改めて思った。

年度末年度初めの多用さに翻弄され、職員の方への声掛けが少なかった。特に、新しく赴任された方は聞きたいことがあっても、話し掛けられず職場に溶け込みづらかったのではと反省している。

音楽や人との関係は、互いに相手を知り、一緒につくっていくものと考え。出過ぎず引っ込み過ぎず、時には少し離れて全体を見ながら、どのようにすると調和のとれた音や人間関係が築けるのか。そのためには、何が必要で自分は何をしなければいけないのか。今日も、悩みながら生徒や教職員の皆さんが気持ちよく過ごせるよう、これまでより少し自分を強くもって努力していきたい。

◆会員の異動◆

7月12日現在めいおんの会把握分(SHR 卒年)名古屋市立は市名略、愛知県は市町村名記、他は都道府県名記

【教諭(本務)】<新任>五味香乃(R6)半田・横川小、三橋真海(R6)稲沢・領内小

【講師】<転任>藤松真人(59)助光中→若葉中、横幕みゆき(59)山根小→堀田小、塚寄崇史(60)南陽中→当知中、渡邊宏美(H9)見付小→大森北小、岡田東子(R5)南陽中→おおぞら高等学院、三浦和世(H7)西尾・西尾中→寺津中、森田育未(R5)常滑・鬼崎中、半田・亀崎中→常滑東小

<新任>長谷川 歩美(R4)黄金中、坂本響綺(R6)飛島村・飛島学園、角田果歩(R6)稲沢・稲沢東小、細野 雄聖(R6)北名古屋・師勝西小、岡島 祐華(R6)春日井・支援施設「あすなろ教室」、中崎桃香(R6)蒲郡・北部小、井本彩水(R6)明和町・斎宮小、下村侑加(R6)玉城町・立田丸小、谷 雛乃(R6)鈴鹿・平田野中





「日々努力」



彦根市立彦根南中学校教諭
押谷 百恵(R4 卒)

授業は楽しいが学級経営が難しい。これが今の私です。

講師経験を活かし、去年は特別支援学級の担任をしていたため、今年度初めて通常級の担任になりました。32人それぞれと対話し、困りごとにすぐ気づける担任になりたいと思ってスタートを切った4月でしたが、作る書類の多さや日々起こる小さな生徒指導に追われ全員と話すことが難しくなっていました。

せめて生活ノートはしっかり見ようと、生徒の短い文章にたくさんコメントをすると少しずつ文章量が増えた子や、逆に減った子など様々です。本当に一人ひとり考え方や感じ方が違うのだなと感じています。そして、この感じ方の違いを共有できるのが音楽の面白さだと思っています。1年生の授業では、鑑賞の始まりとして、「海」をテーマにした曲を短くまとめ4曲聴きました。音楽の要素と重ねながら、自分が感じた海の様子を発表し、最後に気に入った1曲おすすめポイントをまとめました。映画のドキドキ感がそのまま伝わるからと「ジョーズのテーマ」を選ぶ子がいるかと思うと、ゆったりしてシンプルな感じがいいと「浜辺の歌」のピアノ伴奏を選ぶ子など、4曲それぞれに意見が分かれました。発表を聞く前は、ジョーズのテーマ以外はありえないと話していた男の子も、他のクラスメイトの意見を聞く中で、最後の振り返りには「他の曲ももう一回聴いてみたい」と書いていました。このように、色々な音楽に触れるなかで、それぞれの感じ方や価値観に気づくことができるのだと思いました。

今は2学期の合唱コンクールに向けて、自由曲の選曲をしています。去年はどの学級も優勝してほしいと練習期間は各学級を飛び回っていましたが、今年度は学級担任でもあるため、学級づくりの良い機会として、心の通った合唱ができるよう、私の言葉で伝えていきたいと思っています。まだまだ学級担任としては分からないことがたくさんあります。これからも相談共有し、日々考え、日々努力していきます。



「めいおんから学びの多様化学校で働く私」



学校法人西濃学園 西濃学園高等学校教諭
國枝 航大(R4 卒)

令和5年3月に「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLO プラン)において、より子どもたちの目線に立った相応しいものにするという趣旨を踏まえ、「不登校特例校」から新たに「学びの多様化学校」に名称が変更になりました。そして名称変更の通知には、「特に義務教育段階の学校は、『学びの多様化学校』を含め、各個人の有する能力を伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を養うとともに、国家・社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的としており、その役割は極めて大きいこと。」とあります。

私は、大学を卒業してすぐに岐阜県揖斐川町にある西濃学園で常勤勤務を始めました。教員の経験値はゼロ。音楽を教えることにも不安を抱えながら迎えた1年目。現場は、生徒の「社会的自立」をめざして取り組んでこられた先生たちと、個性いっぱいの子供たちばかりでした。先生たちは、真正面から生徒と向き合い、発達の特性を一緒になって考えているだけでなく、一緒にスポーツやカードゲームをして、まさに一緒に生活していました。その空気感に追いつけるかどうか迷う時期や苦しいこともありましたが、気づけば3年が経過していました。日々変化する生徒たちを目の前に、毎日刺激をもらいながら今年度は高校3年生の担任として生徒たちと関わる生活をしています。その中で、「音楽」を通して、自分自身が何を生徒たちに伝えられるかが今の私の課題です。大学時代に学んだ音楽の良さや感じてきた音楽の可能性を大切にしながら、「演奏者」ではなく、「先生」という立場で音楽の素晴らしさを伝えられるよう、これからも励んでいきます。